

○保育の目標

- 豊かな好奇心、意欲あふれる生き生きした子ども
- 多様性を受けとめ、お互いに支えあえる子ども



さくらんぼ組（0歳児）

産休明けよりお預かりしています。赤ちゃんは、ひとりひとり発達段階がとても違いますので、それぞれの生活リズムに合わせた保育をしています。

赤ちゃんの感情は、はじめは快か不快かから始まります。

「泣くこと」や「ご機嫌な笑顔」が赤ちゃんの主張であり、表現なので、それをひとつずつ受けとめてあげるのがこの時期の大人の役目。赤ちゃんにとって、自発的なアプローチを受けとめてもらうという体験のくりかえしは、**心と身体の成長のためのもっとも大切な栄養**です。



こうして、存在を無条件に受けとめてもらい、愛をいっぱい注いでもらって安心して育っていく中で、好奇心が芽生え、それに呼応するように「ハイハイ」が始まります。赤ちゃんはハイハイが大好き！何か面白そうなものを見つけると、そこに向かってスタスタ…今度はこっちへ…黙々と何かをやっていると思ったらティッシュを食べていた…、とか。なんでも口に入れて確かめるこの時期、目も離せませんね。食事も手づかみで「自分で」やろうとし始めます。こうしてハイハイを駆使しながら色々なことに挑戦している間に、いつのまにか、次の「立つ」「歩く」という大仕事のために必要な知力・筋力・体力・バランス etc の準備が整っているのだから本当にふしぎです！

まこと保育園では、ハイハイが十分できるよう、歩きはじめの赤ちゃんが、たくさん歩けるよう、探索活動が思う存分できるよう、広いスペースを用意し、なるべく動きやすいように、早い時期におむつをはずしています。

●1日の流れ

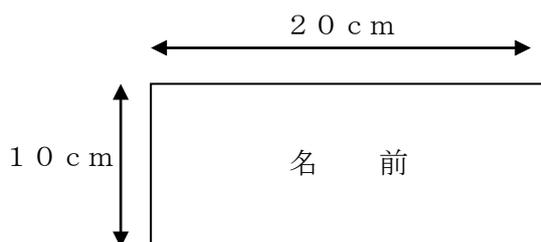
時間	保育内容
7:15～	随時登園 受け入れ・視診
9:00	自由遊び 保育室・テラス・散歩
10:45	昼食（低月齢児～） 午睡
14:30	目覚め
15:00	おやつ ～ 自由遊び
18:15	随時降園
～19:15	1歳誕生日以降延長保育あり



♣ 用意していただくもの

- ・敷布団カバー（120×73）
- ・タオルケット（5月ごろ～10月ごろ）
- ・ベビー毛布、毛布カバー
- ・おねしょマット

※各カバーには、わかりやすいように、下記の大きさの名前を左上につけてください。



♣ 洋服、身の回りのものについて

- ・着替え：パンツ、肌着、ズボン、上衣
(ハイハイ前の赤ちゃんは布おむつを使用しています)
- ・食事用エプロン…小さい袋に入れてください。
- ・ランドリーバッグ…大きめのものをご用意ください。
- ・外ぐつ、散歩用リュック、パジャマ…持ってくる時期は個々にお知らせします。

- ・ 哺乳ビン…消毒の都合上、プラスチックは不可です。
- ・ 乳首…同上の理由で、ゴム製は不可、シリコン製のものをご用意ください。



いちご組（1歳児）

好奇心いっぱいの1才児。自由に歩けるようになり、その世界が一段と広がります。見るものすべてが目新しく、さわらずにはいられないというこの時期。大人から見るといたずら盛りで、ティッシュをからっぽにされたり、化粧台を荒らされたり、引出しはひっぱり出すわ、蛇口をひねって水はジャージャー出すわ……怖いものなしの無法者！でもこのいたずらも、子どもたちの動きをよく見ると、ほとんどが大人のしていることの模倣であり、自分も一人前であること、自分も自分でやってみたいこと、参加したいことの現われです。そして、今の自分の能力にちょうど良い、身につけなければいけない能力にぴったりの作業(たとえば、ティッシュ引っ張る、何でも投げる、穴に落とす、指を入れる、坂を走り下りる…etc、etc)を、ちゃんと生活の中から発見し、何度もくりかえしくりかえし取り組んでいます。そして、この時期の子ども達のもう一つの大きな特徴は、「イヤイヤマン」。

ことあるごとに「いや！」「自分で！」と大人を困惑させる子ども達。対応に困るこの行動も、実は子ども達の「自立(自律)」のためのとても重要なポイント！



周囲に「自分の主張」「自分でやること」を認めてもらうことは、まずは必要なことをきちんと要求できること。そのためには自分で自分を認める(自己肯定感)が育っていることがこと不可欠です。身近な大人に尊重されて初めて、子どもたちは自分を「よし」とすることができるのです。これらは自然から与えられた成長・発達のための彼らの大切な大切な「お仕事」！必要なだけ十分にやらせてあげたいですね。

何故なら、**のちのち人生を前向きに生きていく力の原点**だからです。そう、今育たなければいけないとっても大切なものが、この「好奇心」・「意欲」なのです。

園生活ではこの好奇心の芽生え、まねっこしたい！自分で！という意欲を大切にして生活習慣も伝えていきます。たとえば「オマルに座ること」や「手を洗うこと」「着替え」など。同じリズムや一定の動作の繰り返しが大好きなこの時期、その特性を生かして楽しく身につけています。そして「できるようになる」ことがひとつづつ自信にもつながっていきます。

まわりのお友達やおとなにも興味・関心をもちはじめ、じっと見ていたり、そろそろとアプローチをして

みたり、それぞれの反応を確かめ合い楽しみ始める時期でもあり、何やらわからない言葉で会話を交わし笑い合っている姿は、思わず微笑まされます。

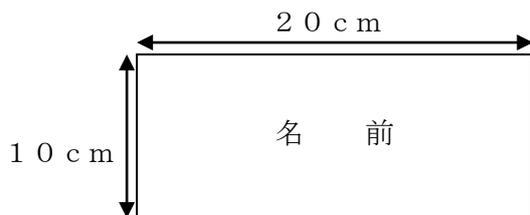
●1日の流れ

時間	保育内容
7:15～	随時登園 受け入れ・視診
9:00	自由遊び 保育室・テラス・散歩
11:00	昼食 午睡
15:00	目覚め
15:30	おやつ ～ 自由遊び
18:15	随時降園
～19:15	延長保育

♣ 用意していただくもの

- ・敷布団カバー（120×73）
- ・タオルケット（5月ごろ～10月ごろ）
- ・ベビー毛布、毛布カバー
- ・おねしょマット

※各カバーには、わかりやすいように、下記の大きさの名前を左上につけてください。



♣ 洋服、身の回りのものについて

- ・着替え：パンツ、肌着、ズボン、上衣
- ・食事用エプロン…小さい袋に入れてください。
- ・ランドリーバッグ…大きめのものをご用意ください。
- ・外ぐつ、散歩用リュック
- ・コップ
- ・パジャマ





もも組（2歳児）

周囲の大人との信頼関係のもと、順調に成長の階段をのぼり、言葉がわかるようになって、ますます世界が広がってきた2歳児。遊びひとつとっても、単なる好奇心だけでなく意識が芽生え、これを使ってこう遊びたいとか、〇〇しようという言葉かけを理解して自分で動き始めます。「考える」ことの始まりです。考え、筋道が通り、そうか！とわかることは喜びで、面白くて仕方ありません。なんで？どうして？そうか！と納得する自分を通して、ますますしっかりと「自我」を育てていくのです。

考えはじめたとはいえ、まだまだわかりやすい整理づけが必要なこの時期。たとえば、昨日はこうやったのに今日はこう…では、せっかくわかり始めて、次のことを自分で考えて自分でやりたい子どもたちは、訳がわからなくなり考えることをやめてしまいます。そこで、環境としては、同じものがいつも同じ場所にあること、生活の中の動きとしては、同じ手順のくりかえしを保育園では心がけています。たとえば、手を洗うことひとつとっても、タオルのおき場所がいつも違っていたら自分でふけません。

また、石けんも「つけなさい！」「今日はつけなくていいの！」

とその時によって違えば、ふりまわされてしまいます。

このように、ひとつひとつ、子どもがわかりやすいように整えてあげると、自然に自分で考えて、自分で判断し、自分で動けるようになります。こうして安定した子どもたちの興味は少しずつ自分以外のお友達や環境に向き始めます。

保育室では、一緒に遊んだりのやりとりも活発になって、まったくもってにぎやかな2歳児クラス。お友達とのケンカは日常茶飯事、けれどケンカなどのトラブルは「自分」を知り「他人」を知る大切な機会。

自分に主張がある、相手にも主張がある、イヤな思いもする、そのことを知り、どう感情の折り合いをつけていくかを体験することは、とても大切なことなのです。



●1日の流れ

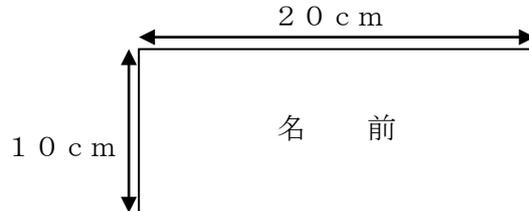
時間	保育内容
7:15～	随時登園 受け入れ・視診
9:00	自由遊び 保育室・テラス・散歩
11:30	昼食 午睡
15:00	目覚め
15:30	おやつ ～ 自由遊び
18:15	随時降園
～19:15	延長保育



♣ 用意していただくもの

- ・敷布団カバー（120×73）
- ・タオルケット（5月ごろ～10月ごろ）
- ・ベビー毛布、毛布カバー
- ・おねしょマット

※各カバーには、わかりやすいように、下記の大きさの名前を左上につけてください。



♣ 洋服、身の回りのものについて

- ・着替え：パンツ、肌着、ズボン、上衣
※衣服は自分で脱ぎ着のしやすいものをご用意ください。
- ・ランドリーバッグ
- ・パジャマ
- ・外ぐつ、散歩用リュック

●通園カバンに入れるもの

- ・お手拭きタオル：掛けられるようにループ状の紐をつけてください。
- ・コップ：毎日洗ってコップ袋に入れてきてください。
 - ・おしぼり：乾いたままケースに入れ毎日持たせてください。
- ・おはようブック

※上記のもの以外は、持たせないようお願いいたします。

※通園カバンは『自分の物』と子どもたちに思ってもらいたいので、登降園の際は自分で肩に下げてくるよう、またお家でもいつも決まった場所を作ってあげて下さるようお願いいたします。

●その他

- ・上ばきは、2学期後半頃に用意していただきます。
- ・体操着を9月頃（運動会前）購入します。



幼児組（ほし組・つき組） — 3・4・5歳児 —

幼児組になるとたて割りのクラスになり、3・4・5才の違った年齢の子どもが同じクラスで生活をしています。小さい子どもたちは大きいお兄さんお姉さんの姿にあこがれ、また手もとのおぼつかない小さい子たちとの生活の中では、自然に手伝ったり、見守ったり、いたわったりの心が育っていきます。最近では、核家族、少子化によりいろいろなたくさんの人とふれあったり、大勢の兄妹の中でケンカをしたりという体験がとて少なくなっています。

まこと保育園では、いろいろな年齢のいろいろな人がいること

（社会ではごくあたり前で自然なこと！）、

そしてその中で起こるいろいろな出来事も
体験を通して知ってほしいと思っています。

年齢が違えば当然発達段階も違います。

同じ年齢の中で見てもひとりひとりそれぞれ発達段階も違えば興味も違います。

室内にはいろいろな教材が準備されており、子どもたちはそれぞれの興味・関心の段階に合わせ、自由に取り組んでいます。ひとつのことを獲得するのにくりかえし挑戦し、上達したり理解していく子どもたちの熱心な姿は自身の「育つ力」を感じさせてくれます。そのように、子どもたちはいろいろな違うもの同士が互いに刺激となり影響を受けあいながら自分たちで育ち合っていていき、その姿は、大人がやっきになって教えようとするときに比べるとたいへん伸びやかで生き生きしています。



環境から自分で体験して自分で学んでいくこと、それが「人間の成長」の本来の姿ではないでしょうか。

園での生活が、単なる知識や技術や能力の獲得だけでなく、それら与えられた賜物をトータルして、自分を生きる力、その子自身の大切な土台となるべき『人間力』を育む助けとなれればと願っています。